

通信コスト削減と安定性の確保。VPNプラスをDigitalGate、PRAと併せて利用することで全国12ヶ所の拠点をVPN構築。



経理・総務本部
情報システム室
リーダー&ネットワーク
アドミニストレーター
増田 一実さま

日本データカード株式会社 さま

事業内容：カード発行機の輸入・販売

カードによるソリューションのプロフェッショナル

日本データカードさまでは、ネットワークサーバーバック、DigitalGate VPNプラスを利用し、全国12ヶ所の拠点をVPNによるネットワーク構築されました。

導入商品

ファイバーリンク pro IP8/ファイバーリンク pro IP1
ネットワークサーバーバック/DigitalGate VPNプラス

課題

全国12ヶ所の拠点のネットワーク構成をVPNで結び高速化したい。特にダイヤルアップで通信していた支店営業所や自宅からの接続について、高速化の要望が大きい。

ソリューション

利用者の多い本社、技術センター、大阪支店の3ヶ所にファイバーリンク proとDigitalGateによるネットワークサーバーバックを導入。ほかの拠点はVPNプラスおよびDigitalGateのPRA機能を利用し、全国12拠点のVPN接続ネットワーク環境を構築した。

● 導入の背景

ダイヤルアップ・専用線からVPN構築へ。

Q bit-drive導入前のネットワークについてお聞かせください。

A 2001年にトラフィックの多い事業所間を64Kbps、128Kbpsの専用線によるネットワーク構成とし、ダイヤルアップ接続のモデム通信と併用した全国ネットワークを構築しました。主な使用目的は、グループウェアサーバへのアクセスです。回線が遅いため、サーバを設置していないダイヤルアップ接続の事業所ではメール以外のデータベースはなかなか利用されませんでした。

通信コスト削減と安定性の確保。業務用のbit-driveでVPN網を構築。

Q bit-driveを導入された経緯をお聞かせください。

A 最近では社内のメールでかなり大きなデータを添付して送るので、サーバが設置されていない営業所は、同期転送時間がかかり、通信コストが増大していました。そこでVPN網を構築し、本社のサーバでデータベースを一括管理するために各種のサービスを検討し始めました。

グループウェア、リモートアクセスが使える、コストが適当なサービスにbit-driveがぴったり。

Q bit-driveのどこが導入の決め手でしたか。

A 弊社の使ってきたグループウェアが利用できることは、絶対に必須だったのです。そこで実績が無いソリューションは検討から外れました。もう一つはリモートアクセスを多用する予定がありました。2~3名といった事業所からのアクセスは、VPNを構築するほどのネットワークの利用は行われていませんでした。また自宅からも利用していたため、情報システム室としても極力使いやすくコストの安いリモートアクセスを探していました。そういった条件で探すと、ほかの条件はよくても弊社のグループウェアが使えるなかったり、モバイル環境ではルータが買い取りになっており、「人数分ルータを導入するとコストが高くなる」「リモートではスピードが出にくい」など、なかなかニーズにぴったり合うサービスがありませんでした。bit-driveのことは知っていたので、ホームページにアクセスして調べてみるとDigitalGateの機能にPRAというニーズにぴったりのリモートアクセスがあったので、早速営業さんにコンタクトを取りました。

